

令和3年10月6日（水）

## 新人戦激励

- いよいよ新人戦ですね。新型コロナ感染予防対策のため、十分な練習ができなかったかもしれませんが、どの学校も条件は同じです。しかし、先程の各部からの力強い決意表明を聞いていると、頼もしさを感じました。何よりもみなさんお辞儀の仕方がいい。背筋が伸びていて引き締まった感じがしました。いい勝負ができそうです。
- では、私の方から一言激励の言葉を述べます。
- 新人大会に出場する8年生、7年生の皆さん。皆さんが主役となる初めての大きな舞台（おおぶたい）です。今、どんな気持ちでしょうか。
- ワクワクしているでしょうか、緊張しているでしょうか。
- そこで、皆さん全員に伺います。この新人戦に向けたあなたの目標は何ですか？自分の胸に手を当てて「自分の目標は何か」を今一度、自分に問いかけてみてください。
- 「この新人戦で何を試すのか」。それは、「これまで練習してきた技術なのか」「勝負から逃げない精神なのか」、それぞれ、チームに、個人に目標がなければ、出場しても意味はないと思います。
- ところで皆さんは「勝負の神様は細部に宿る」という言葉を知っていますか。
- 試合の勝ち負けを分けるのは『たった一回ぐらい』『自分一人ぐらい』という小さなゆるみであることがほとんどです。
- 新型コロナとの戦いも同じなのです。自分一人くらいマスクをつけなくてもいいだろうとかいういい加減な気持ちが全体の雰囲気は大きく崩れてしまいますよね。
- その「細部」というのは、具体的な「技術」や「チームワーク」に関すること



だけではありません。

- 例えば、日ごろの「挨拶」や「返事」、「スリッパ並べ」、「服の着こなし」。そういうのも「細部」です。それが乱れると全体として崩れてしまう。分かりますか。
- 少し長くなりますが、私の経験をお話します。
- 私も弓道をずっとやってきましたが、顧問として初めて全国大会に行った時のことは今でもよく覚えています。
- そのころの私はまだ若かったのでしょうか、勢いだけで「全国制覇」といいながらも、なんとかベスト8まで勝ち進みました。もう一つ勝てばベスト4、相手は石川県金沢市立工業高校という名門校でした。
- 弓道競技は、控室で相手のチームと隣り合わせて同じ方向に向かって整列して座ります。その時の対戦相手の緊張感。一分の隙も与えない雰囲気がありました。
- 「目つき」、「表情」、「ユニフォームの着こなし」、「姿勢」、「立ち振る舞い」。どれをとっても勝てないと思いました。隙がないのです。
- さて、新人戦は、そういう意味では、まだまだそうした競技レベルからするとほんの入り口にすぎません。完成はまだ先で結構です。
- ですが、「勝負に勝てるチーム」とはどんなチームなのか。「試合に勝てる選手とはどんな選手なのか」といったイメージを描きながら、一つ一つの試合で、それを試し、一步一步、「考え方」も「技術」も成長して行ってください。



- そして、やがては「応援よろしくお願ひします」と言わなくてもみんなから「応援してあげたくなる」ようなチームや選手になってください。
- 目標を高く持って頑張れ。健闘を祈ります。